

ロック調ソーラン節で「ツッパリ生徒」変身



完成した映画でも振り付け指導をした春日寿升さん(左端)と、春日さん役の増田恵子さん(左から2人目)ら=20日、東京都内で

校内暴力で荒れていた北海道の中学生たちが「踊り」で立ち直つた—という実話をもとに製作が進められた映画「稚内発」学び座」の全国公開版が完成し、二十日、東京都内で発表試写会があった。指導役のモデルとなつたのは北九州市の日本舞踊家、春日流二代目春日寿升さん(四十七)。生徒たちのためにロック調のリズムに乗つて激しく全身を動かす「ソーラン節」を考案し、体当たりの指導で子どもたちの心を開いていった。発表会では「自分で自分の力の可能性を確かめることの大切さが伝わってくれれば……」と話した。

舞台は稚内市の市立稚内南中学校。一九八五年ごろから、教師へ暴力を振るつたり校舎を壊したりする事が頻発し始めた。九二年、当時の校長が民謡歌手の伊藤多喜雄さんから紹介された春日さんに、生徒への指導を依頼した。ボランティアで九州からやつてきた春日さんが教える相手は、三年の男子十五人。半数は「普通の生徒」だったが、残りは「まゆ毛」だった。春日さんは「ツッパリ少年たち」だった。

当初は「普通の振り付け」を考えていたが、荒々しいオホーツクの海のイメージを表現した踊りを考えた。「ソーラン、ソーラン」「ドッコイシヨ、ドッコイシヨ」。アップテンポの伊藤さんの歌に合わせ、上半身を上下左右に激しく動かすダイナミックな踊りだ。

踊りの時間は約三分半だが、激しい踊りなので「最後まで踊るのは、自分との闘い。生徒も私も、真剣勝負だつた」と春日さん。春日さんは「津軽じょんがら節」で知られる斎藤耕一さん。春日さん役は元ピンク・レディーの増田恵子さん、生徒役に安達祐実さん、先生役は渡瀬恒彦さんらで、いずれも発表会に出席した。

春日さんは「最初は仕事のつもりだった。見かけは不良でも、純真な子どもたちの目にひかれて、私自身がどんどんのめり込んでいった」と話した。

映画は昨年十月に完成し、東京によると、昨年四月にほぼ完成した直後から問い合わせが殺到し、これまでに全国二百カ所以上で未完成版の自主上映会が開かれている。

稚内の中学モール奮闘記の映画完成

北九州の舞踊家、北海道で体当たり指導